

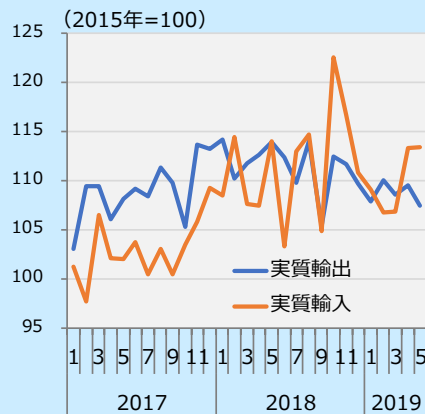
日本：貿易統計（2019年5月）

—実質輸出はアジア向けを中心に減少傾向が継続—

MRI Daily Economic Points

June 19, 2019

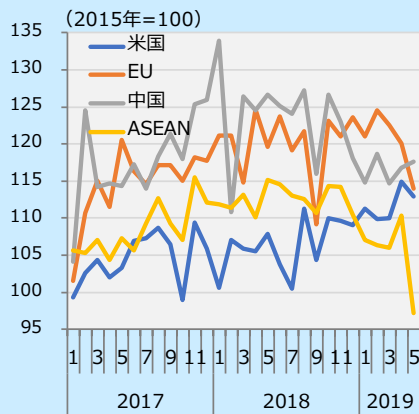
実質輸出入



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

実質輸出：国別



注：当社による季節調整値。

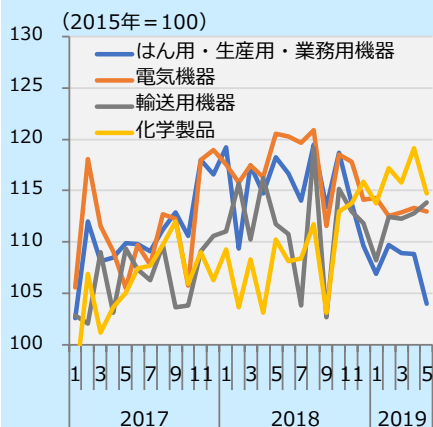
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 19年5月の貿易収支（季節調整値）は、▲6,091億円と、11ヶ月連続で赤字となった。名目輸出は前年比▲7.8%と、6ヶ月連続で減少した。名目輸入は同▲1.5%と、3ヶ月ぶりに減少した。
- 実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比▲1.9%と2ヶ月ぶりの減少となった。実質輸入は、前月比+0.1%とほぼ横ばいとなった。
- 5月の実質輸出（季節調整値）を国別でみると、中国（前月比+0.7%）は輸送用機器や電気機器が高めの伸びとなり、2ヶ月連続で増加した。一方、ASEAN（同▲11.9%）、EU（同▲5.1%）は、19年以降高めの水準で推移していた化学製品のほか、輸送用機器やはん用・生産用・業務用機器など幅広い品目が減少し、大幅な減少となった。また、米国（同▲1.7%）も化学製品や輸送用機器を中心に、3ヶ月ぶりに減少した。
- 半導体製造装置の実質輸出は、前年比▲26.6%と7ヶ月連続で減少し、減少幅も拡大。米国向けは増加傾向にある一方、米中貿易摩擦や半導体関連需要調整の影響から、中国向けや韓国向けの減少が続いている。

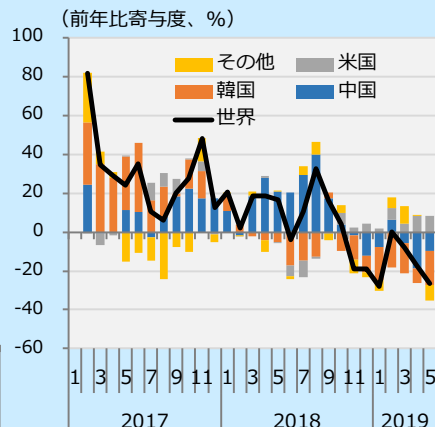
実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

半導体製造装置の実質輸出



基調判断と今後の流れ

- 輸出は、海外経済の成長減速などを背景に、18年後半以降、緩やかな減少傾向にある。
- 先行きの輸出は、19年後半にかけて緩やかな減少が予想される。米国による中国ハイテク製品排除の動きもあり、半導体関連需要の底入れは20年前半に後ずれする可能性が高まっている。中国経済の減速傾向も継続する見込みであるほか、減税効果のはく落を背景とする米国内需の拡大ペース鈍化により、これまで好調だった米国向け輸出も減速となろう。
- さらに下振れリスク要因として、①米中貿易摩擦の一段の激化、②中国をはじめとする海外経済の減速、③金融市場のリスク回避姿勢の強まりによる円高、④日米物品貿易協定(TAG)交渉の行方、が挙げられる。